

公立大学法人金沢美術工芸大学  
平成28年度業務実績報告書 訂正一覧表

平成29年8月

公立大学法人金沢美術工芸大学

## □ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。	(7) 学士課程教育を、本学の教育拠点として位置づけ、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、これに相応しい教育を実践する。	(7) 大学及び学部の目標、教育目標、3つのポリシー等の連関性について不断に検証する。	○大学及び学部の目標、教育目標とカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの連関性に関しては教務委員会、大学院運営委員会がシラバス作成時に検証を行い、アドミッションポリシーとの連関性に関しては入学試験委員会が一般、推薦入試終了後の専攻アンケートを基に検証を行い、3つのポリシーとの整合性の確認を行った。	III		資料52 資料53

【次ページに記載】

### 〔質問・意見等〕

・3ポリシーについての具体的な記載やどのような学生を受け入れるのかという詳細な記述をして欲しい。

### 【修正対応】

大学及び学部目標、教育目標とこれを実現するためのカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをホームページ上で公開し、これらの連関性に関しては教務委員会、大学院運営委員会で検証を行い、シラバス作成の改善等に活かした。また、本学が養成する人材として、どのような学生を受け入れるかというアドミッションポリシー（学生の受け入れ方針）についてもホームページ上で公開し、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとの連関性に関しては入学試験委員会が、一般、推薦入試終了後の専攻アンケートを基に確認し、それが入試方法に反映されていることについての検証を行った。

#### 〈カリキュラム・ポリシー〉

美術工芸学部の教育目標で求められる学修成果を修めるために、下記の事項を踏まえて、学生が段階的に学べるよう、体系的に教育課程を編成する。

1. 学部教育の4年間の前期において語学、体育を含む一般教育を中心に履修し、その基盤の上に専門基礎科目を履修する。高学年になるに従い専攻科目などの専門科目の割合が増えるような科目編成とし、一般教育科目と専門科目の連携をめざしながら体系性を保持し学習効果の保証を図る。
2. 専門教育科目の基礎科目においては、自専攻・科以外の分野を選択履修し、さまざまな技法や素材に触れ、多様なメディアを用いた表現や複合的な表現が可能となる科目編成とする。
3. 専門教育科目の専攻科目については、各科・専攻のコアとなる科目を体系的に編成することにより順次性をもって学習し、4年間の成果の集大成として卒業制作・論文を課す。

#### 〈ディプロマ・ポリシー〉

美術工芸学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、下掲4つの学習成果を修め、かつ所定の単位（124単位）を修得した者に学士（芸術）の学位を授与する、と定めるものである。

1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。
2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技能を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。
3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。
4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。

#### 〈アドミッション・ポリシー〉

金沢美術工芸大学は、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」（大学憲章）を育成することを社会から負託された使命であると考え、次の三つの教育目標を掲げています。

1. 地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。
  2. 深く芸術の神髄を探究し、美術・工芸・デザイン分野における卓越した知識と技術を継承することによって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担う人材の育成を目指す。
  3. 市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核として、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する人材の育成を目指す。
- このような教育目標に共鳴し、美術・工芸・デザイン分野における知識と技術の担い手となる意欲と資質を備え、積極的に勉学に取り組む主体性のある人を、金沢美術工芸大学は求めています。

入学を希望する諸君に金沢美術工芸大学が望むのは、デッサン等の実技能力を養っておくことに加え、高等学校までの各教科・科目をできる限りしっかりと習得しておくことです。広い視野と基礎的な学力があってはじめて、自らの問題意識を掘り下げて、より高度な制作・研究に進むことが可能になります。一般選抜試験では、すべての専攻が大学入試センター試験において「国語」および「外国語」を必須の試験科目として課しています。入学後の授業では、制作課題のプレゼンテーションやレポートなど、言語による表現が要求されます。また、筋道立てて読みとる読解力はあらゆる学問・情報に接近するために不可欠な基礎的能力だと考えます。

## □ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 大学院教育にあっては、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、芸術の多様な領域で横断的に活躍できる高度専門職業人を育成するとともに、大学院を本学の研究拠点と位置づける。	(7) 修士課程及び博士後期課程を、本学の研究拠点と位置づけ、教育と研究との高度で有機的、実質的な連関を実現する。また、その実現のために、総合的な大学院改革に取り組む。	(7) 27年度の大学院改革ワーキンググループによる答申を元に、大学院改革の検討・立案を行う会議を新たに組織して、具体的な改革案を策定する。	○27年度の大学院改革ワーキンググループによる答申を踏まえて、教務学生担当理事・大学院担当教育研究審議会委員・大学院運営委員会委員長による会議を行い、大学院改革案を検討し、教育研究審議会で具体的な改革案の骨子となる将来のあり方やその方向性を決定した上で大学院研究科委員会に報告した。	Ⅲ		資料44
<p>【修正対応】            ○27年度の大学院改革ワーキンググループによる答申を踏まえて、教務学生担当理事・大学院担当教育研究審議会委員・大学院運営委員会委員長による会議を行い、大学院改革案を検討し、教育研究審議会で具体的な改革案の骨子となる将来のあり方やその方向性を決定した上で大学院研究科委員会に報告した。具体的には、まず現状の修士課程(2年)と博士後期課程(3年)を博士課程(5年)の一貫制大学院とするとともに、現在の修士課程(2年)における<u>絵画専攻・彫刻専攻・工芸専攻・デザイン専攻・芸術学専攻</u>を、一貫制大学院における博士課程(5年)を通して美術工芸研究科美術工芸専攻の1研究科1専攻に統合する。そして、学部での所属に縛られない柔軟な教員の配置を可能とすることで、従来の専攻縦割りの専門教育のあり方を是正し、各研究領域の専門性に立脚しつつ、主領域の指導に他領域の指導を柔軟に取り入れ、実技と理論を連動させた領域横断型の複数指導体制による大学院教育を実現する。これにより、第二期中期計画に明記した芸術の多様な領域で横断的に活躍できる高度専門職業人を育成することとしている。</p>						

13

### 〔質問・意見等〕

- ・大学院改革の具体的な記載(一貫性大学院、複数指導体制)について、全ての項目で記載する必要はないが、最初に記載される箇所で詳細に記載して欲しい。

## □ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
イ 研究・調査の成果を体系的に蓄積し、国内外に対して広く効果的に発信・展開する。	(7) 本学が取り組む研究について、その成果を効果的、計画的に整備・蓄積し、また公開・展開する。	(7) 研究報告書等の分類整理に引き続き取り組むほか、研究内容を電子情報化し大学ホームページ及び全国図書館ネットワーク等を通じ公開する。	○大学紀要は、これまでと同じく国立情報学研究所の論文データベース・サービス (GiNii) においてネット上で全文公開した。	III		資料51
<p>【修正対応】 ○教員研究費（基盤研究・発展研究・特別研究）による研究報告書を内容に応じて分類整理し、本学の研究成果を体系的に蓄積するとともに、特別研究においては大学教員の研究成果を発表する媒体である『金沢美術工芸大学紀要』に制作記録や調査報告、論文等を掲載することを義務づけ、また紀要の末尾に教員研究題目等の一覧を掲載した。紀要全体としては、これまでと同じく国立情報学研究所の論文データベース・サービス (GiNii) においてネット上で全文公開した。</p>						

69

〔質問・意見等〕

・どのような分類整理を行ったのか、取組内容等を具体的に記載して欲しい。

## □ 項目別実施状況

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

(2) 教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
特色ある教育研究を推進するとともに、学習に対する学生の需要や研究に対する社会の要請を検討し、教育研究組織について計画的な見直しを行う。	(7) 学部及び大学院について、科・専攻の編制、学生定数、教員定数等について不断の検証を行い、改善に努める。	(7) 教育研究組織について、不断の検証を行い改善に努める。	○成美会（保護者会）・同窓会・経営審議会から意見聴取や卒業生アンケートを実施し、外部の視点を踏まえた教育研究の在り方に関する検討を各科・専攻で引き続き行うとともに、第二期中期計画にある学部教育の充実、大学院教育の改革について教育研究審議会で検討した。			
			<p>【修正対応】</p> <p>○成美会（保護者会）・同窓会・経営審議会から意見聴取や卒業生アンケートを実施し、外部の視点を踏まえた教育研究組織の在り方に関する検討を各科・専攻で引き続き行った。</p> <p>○第二期中期計画にある学部教育の充実、大学院教育の改革について教育研究審議会で検討し、その結果、従来の専攻縦割りの専門教育のあり方を是正し、各研究領域の専門性に立脚した領域横断型の複数指導体制による大学院教育を実現するための大学院改革の骨子とその方向性を定めた。</p>	III		資料44

100

〔質問・意見等〕

・一文が長すぎ、文章がわかりにくいいため、文を区切って記載して欲しい。

## □ 項目別実施状況

財務内容の改善に関する目標  
 2 経費の効率化に関する目標  
 (2) 人件費以外の経費の効率化に関する目標

中期目標	中期計画	年度計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己 評価	自己評価と異なる 評価委員会の 評価とその理由	添付資料 番号
弾力的かつ効果的な 予算執行に努めるとと もに、業務の簡素化及 び効率化を進める。	(7) 管理的経費の効率的、効果 的な執行に努める。	(7) 省エネを徹底するほか、効 率的、効果的な管理的経費の 執行に努める。	○冷房28℃、暖房20℃の空調設定、夜 間巡回時の不要照明消灯確認、食堂冷 蔵庫の配水管清掃を行うなど省エネを 徹底したことで、水道代は対前年度比 12%減、ガス代は対前年度比5%減とな るなど、経費削減を推進した。	IV		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【修正対応】            ○冷房28℃、暖房20℃の空調設定、夜間巡回時の不要            照明消灯確認、食堂冷蔵庫の配水管清掃を行うなど省            エネを徹底した。また、トイレの改修工事等により大            幅な節水ができたことで水道代が対前年度比12%減、            ガス代は対前年度比5%減となるなど、経費削減を推進            した。</p> </div>				

### 〔質問・意見等〕

・水道代がかなり節約できているが、こういった理由が考えられるか。主な理由を業務実績に記載して欲しい。